

福山型筋ジストロフィー症児の発達に関する事例研究(2)<sup>※</sup>熊川 宏 昭<sup>※※</sup>

本研究では、先の報告（熊川・栗山・松尾・山下、1992<sup>9)</sup>）に引き続き、一人の福山型筋ジストロフィー症児の発達経過をコミュニケーションの発達を中心に検討を加えた。

その結果、「同型性」、「相補性」（〈子どもの生活世界〉研究会、1986<sup>8)</sup>）の共時的形成関係が示唆され、「共同化された対象」→「他者の姿勢・態度をまねられる“身体”」→「他者と基本的に同型の“身体”」（麻生、1992<sup>3)</sup>）の変容過程、同化的側面が前面に出た交替遊びの出現などが確認された。

キーワード：福山型筋ジストロフィー症、コミュニケーションの発達

## I. はじめに

福山型筋ジストロフィー症（Fukuyama type Contingency Muscular Dystrophy；以下、FCMD）は、進行性筋ジストロフィー症の中でも、重度の精神遅滞を伴うことで特徴づけられている。しかし、これまでの研究では、その遅滞及び発達の様相についての詳しい検討が乏しい。

このことを受けて我々は、あるFCMD児の1年間の変化をコミュニケーションの発達を中心に検討し、ままごと遊び場面での役割交替、同型の活動による相補的やりとり、物の見立てにおける「固有の機能を有する形態的非類似物の見立て使用」「形態的類似物の見立て使用」の出現、および、指さし→指さしと言語の併用→言語という発達経過を確認し、全般的にも良好な発達経過をたどっていることを明らかにした（熊川・栗山・松尾・山下、1992<sup>9)</sup>）。

そこで本報告では、先の報告に引き続き、同じ対象児のその後1年間の変化を、やはりコミュニケーションの発達を中心に検討し、FCMD児の発達および援助についてさらに詳細な手がかりを

得ることを目的とする。

## II. 方 法

## (1) 対象児の概要

観察開始時CA7歳のA児（詳細は熊川・栗山・松尾・山下（1992<sup>9)</sup>）を参照。

## (2) 分析資料

A児7歳4カ月4日から8歳6カ月17日までの約1年2ヶ月の指導者（以下、T1）による記述記録、および家庭との連絡帳の中で、コミュニケーションに関連したエピソードを分析資料とした。なお、III. 結果の記述における登場人物は、T2（T1のクラスの副担任）、B（A児と同じクラスの子ども）、C・D・E（隣のクラスの子ども）である。同じくIII. 結果における（X；Y，Z）と記してあるのは、A児がCA X歳Yカ月Z日に観察されたエピソードであることを示す。

## III. 結 果

## 7歳4カ月

（7；4，4） 昼食で久しぶりに病棟へ。食べ始めてから少し甘え気味。そのうち、お茶のコップを指してT1の方を見て、首を縦に振る。（お茶を飲みたいということ）。しかし、Aの分がないと思ったT1は、「お茶なしよ」といってひたすら食べさせるが、腕を動かさなかったり、スプーンを放り投げるようにして拒否的な態度を示す。その後、こちらでも食べさせようとする気持

※ A Case Study on the Development of child with Fukuyama type Contingency Muscular Dystrophy (2).

※※ 福岡教育大学障害児治療教育センター研究部員（第1部門）

福岡県立筑後養護学校赤坂分校

ちがますます強くなり、それに呼応するかのよう  
に、Aの拒否的な態度も強くなる。まさしく、コ  
ミュニケーションのずれを感じる。

(7; 4, 5) 遊びの時間に手遊びを行う。  
その中で、「ひげじいさん」を行う。T2と向か  
い合って、最初の方は目がうつろに宙を追って  
いるが、2、3回くらいすると、こぶしをつくって  
叩きながらニコニコしだす。「げんこつ山のたぬ  
きさん」にいたっては、T2の動作を模倣して、  
“ねんねして……” のところで手を胸に持って  
いたり、“おっぱいのんで……” のところで  
こぶしをつくって親指を吸うようにする。もち  
ろん、歌のメロディも口ずさんでいる。

(7; 4, 7) 国語の時間、Aの動作をT1  
がすべてまねする“まねっこ遊び”をする。T1  
が少しまねをするのをやめると、T1の手を取  
ってまねするように催促する場面が見られた。

(7; 4, 9) 図工の時間、こいのぼりに広  
告の紙を切ったうろこを貼る。紙をおさえるのが  
おもしろいらしく「トントン」といいながら喜ん  
でいた。

(7; 4, 11) Bと横に並んで課題を行って  
いると、隣のT2とBのやりとりの楽しさに、そ  
ちらを向いてニコニコする。「Aくんもこれした  
いね」とT2がきくと、うなづくので、T2、A  
と遊びだす。去年と同様、自分のしぐさを相手が  
ややオーバーに模倣していくことをとても喜ぶ。  
T2とは情動の共有がはかりやすいようだ。

(7; 4, 11) 箱にビー玉を入れて、ゴロゴ  
ロと転がし、それに合わせて「ブンブン」とT1  
がいって、車を運転しているような感じをだすと、  
A、体を左右に揺らし、「ブンブン」といいなが  
らニコニコする。しかし、T1のことばに共鳴し  
ているのではなく、ビー玉の動きに共鳴している  
ように見える。

(7; 4, 12) 遊びの学習の時間に、紙吹雪  
を散らして遊ぶ。やり始めは、体に紙吹雪がまい  
おりてくると、泣きそうな顔になっていたが、10  
分くらいすると、紙吹雪が舞うときに、「ファー」  
といいながら笑う。紙吹雪が体について泣きそう  
なので、取ってやって、紙吹雪がつかない場所に  
連れていくと、T1が紙吹雪を散らせるのを見て、  
だっこを要求する。「こっちにきたいの？」とい  
うとうなづくので連れてくると、頭を垂れて、頭  
を自分で撫でる。「(紙吹雪を)かけてほしいの？」

というとうなづくので、紙吹雪を上から散らして  
やると、泣きそうな笑いそうな複雑な顔をする。

(7; 4, 13) 算数の時間にAと一緒に輪投  
げをする。始めのうちはAとBと交互にさせてい  
たが、そのうちBが関心をなくしたようだったの  
で、BについていたT2が、「じゃAくんしてみ  
んね」といって、輪を全部Aの足元に置く。T1  
に促されながらA、2、3個輪を棒に通す。その  
後、輪を持ったかと思うとBの方に2つ渡す。T  
1が「Bくんやるの？」というとうなづく。

(7; 4, 13) 遊びの時間、昨日に続いて紙  
吹雪遊びを行う。今日は最初から舞う吹雪を見て  
「ウアー」と言って喜ぶ。それを見ていたT2が  
うちわで落ちてくる吹雪をあおったり、吹雪をう  
ちわにのせて落としたりして盛り上げる。それに  
つられてA、次第に興奮した笑い声になる。10分  
くらいすると、いままでおとなしかったBも鼻息  
が荒くなり、笑顔が見られるようになる。まさに  
T2との情動の共有がBにも伝播した感じ。

(7; 4, 14) Aの動作を終始模倣してい  
ると、たえず相手の動きをじっと見てとても喜んで  
くれる。

(7; 4, 14) 連絡帳を書いている時、横に  
座っていたBの肩を後ろからつかんで顔をのぞき  
込んだ後、ニコッとする。

(7; 4, 14) 病棟で夕食を終えたBがテ  
ーブルに頭をのせた。A、すぐに同じ格好をして舌  
をぺろっと出し、Bにキスする。

(7; 4, 16) 国語の時間、おふろの絵本を  
見せながらお風呂ごっこをする。お風呂の絵を見  
ながらすぐに服を脱ぎたがる。

(7; 4, 18) 養護・訓練の時間、Cがゆら  
ゆらするタライにのっていると、じわじわ近寄っ  
てきて近くにいた私を見るなり首を縦に振っての  
りたがる。

(7; 4, 19) 算数の時間、最初ジュースの  
空き缶を積み上げて遊ぶ。倒れるとガラガラとい  
う音がして缶の表面が反射するためか喜ぶ。しか  
し、5分くらいすると飽きてきたので、横に並べ  
てゴロゴロと転がすと、じっと注視しながら喜ぶ。  
しかし、その喜び方はT1を見るからではなく、  
缶のランダムな動きにのめり込むような笑い。

次に缶を入れて箱を上下に揺らすととても喜ぶ。  
Aにも握らせてT1も一緒に上下すると、Aも体  
を揺らしてニコニコする。しかしこの時も、喜び

が共有できているという感じはT1の側には少ないように感じられた。

(7; 4, 21) 算数の時間にままごと遊びをする。絵本を見て、その後ままごとセットを使いながら食べるまねをする。ちょうどその時は人参加何かで、T1が「人参ね」と言って、まな板の上できざむまねをしてスプーンでフライパンに入れ、Aにスプーンと、盛りつけたと見立てた浅いどんぶりのような入れ物を渡す。これ以前に同じことをやったが、その時はスプーンを持とうとしなかった。しかし今度は、すぐにスプーンを自分でもって口に持っていく。「先生にちょうだい」というと、しばらくT1の顔を見ていたが、そっと私の口の中にスプーンを入れる。

7歳5カ月

(7; 5, 1) 2、3回の「イナイ・イナイ・バー遊び」の絵本を見せる。前回までT2と「バー」と顔が出るときの楽しさを共有していたためか、こちらが「イナイ・イナイ………」と言うと、口をすぼめて「バー」と言うのを待ち受けている様子。こちらがAの期待が一番高まったかなと思うところ（口が膨らみきったところ）で「バー」と絵を提示すると、待ってましたとばかりに同時に「バー」と言ってニコニコ笑う。イナイ・イナイ・バー本来の楽しさがわかってきたなと感じる。

(7; 5, 5) 最近やっているイナイ・イナイ・バー遊びがとてもお気に入り。自分で目を手で隠し、「バー」といいながらはずして楽しんでいることがよくある。

(7; 5, 14) “上がり目、下がり目、ぐるっと回ってねこの目”が好きで、母親の手を取ってさせたがる。

(7; 5, 22) T2がきつねの人形を取り出して、Aの前で「タンタンタン」とリズムをとりながら揺らす（それまでAは何にも関心を示さずおとなしい感じだった）。気に入ったらしく、人形の動きを見て本当によく笑う。その後、笑いながら人形の動きに併せて体を左右上下に揺らす。本当にT2とAとは情動の共有がしっくりきているように思う。

また、これは今日に限ったことではないが、Aは、とても楽しさの共有のボルテージが上がったとき、これまで話さなかったいろいろなことばが出てくる。やはり、活動の充実感、楽しかったという気持ちの強さの度合がことばを引きずり出す

ような感じだ。

(7; 5, 27) 病棟へ行った時、Bの所によっていって頭を撫でたり、Bの横に寝てグジュグジュとか言う。かなりBのことを意識している感じ。

(7; 5, 28) T2の踊ったりおどけたりするのを我を忘れたように見て笑う。本当にこのようなおもしろさの共有がことばを引き出すのだなと思う。

(7; 5, 30) 算数の時間、最初はT1と遊ぶ。ボウルにビー玉を入れ、一緒に持たせて転がすが、時折ニコニコとする。後はじっと無表情に見つめる。しばらくしてT2が同じようにして遊ぶが、喜び方が全く違って、本当に心の底からおもしろい様子。一概に応答性の違いとは言えない何かがありそう。

7歳6カ月

(7; 6, 0) 最近では自分がいやだったらいやとはっきり言うようになったみたい。

(7; 6, 5) 今日一日を振り返ってみると、教師や看護婦さんのいったことをすぐに模倣する活動がよく見られた。それも一音一音はっきりしているのではなく、全体のことばの調子がはっきりしている（前面に出ている）。

(7; 6, 6) 最近、気分的に安定している感じ。ニコニコしていることが多く、昼休みなど絶えず話しかけるような発声が多い（昨日記したように、大人の発声をまねしているようではあるが、その場にあったような発話のようなものも時折あるように感じられる）。

また、大人の発話の意味は以前からよく理解していたようだが、それに対する応答が非言語的・前言語的なものが多いが、明確になってきた感じ。

(7; 6, 7) 今日お昼ごはんを食べてから、歯磨きをするために2Fへ上がる。ブラインディングをしながらエレベータを降りていくAを見て、楽しさの水準があって、その興奮がブラインディングにあふれているように感じる。

(7; 6, 18) 病棟での昼食。久しぶりでニコニコしていたが、ニコニコしながら食べずにごはんを舌先で出したり、食べものを出したりと食べたがらない。

(7; 6, 18) 国語の時間ボウルやブリキの缶にビー玉や入れこのパーツを入れて揺らす。おそらく、視覚的にランダムな刺激と聴覚的な刺激

があいまって情動を高揚させるのだろう。

(7 ; 6, 19) 国語の時間、テレビで学校放送を見る。その中で「がっこう」と書いた看板が出てきて、T2が「がっこう」というと、「がっこう、がっこう」とともに座りながら言う。またT2が「こうつうせんげんのまち」と画面の字を読むと、イントネーションを実によくまねて、思わずこちらも吹き出す。

(7 ; 6, 21) 昼ごはんが終わって、エレベータで下へ降りていると、「デインチ、デインチ」という。エレベータの照明を指すので、「デインチ」といって同じ所を指すと、ニコツとして「デインチ、チタ」という。

7歳8カ月

(7 ; 8, 27) T2とまねっこ遊びをする。声の調子を上手にまねしてくれる。

7歳9カ月

(7 ; 9, 5) Dがトライアングルを「チーン」と鳴らすと、仏壇のかねの音と思ったのか、「ナムナム………」と手を合わせておまいりするまねをする。

(7 ; 9, 13) 積木を最初は床の上において「ブブー」、次に耳にあてて「アイ、アイ」といいながら電話をかけるまね。そして口にあてて飲むまねと、複数の見立て行為に使用。続いてそばにあったタップコードをT1に持たせて歌うまねをさせ、自分はをしてにこにこする(家で家族が歌うカラオケの様子を再生しているものと考えられる)。

(7 ; 9, 19) 昼からT1の方に手をさかんに出してつねろうとしたり、ぐずったり機嫌が悪い。しかし、5時間目が終わっておむつを替えてやると、本当にすっきりしたような顔をする。やはり、不快なことを訴える手段だったのかと思い、関わりのまずさを反省する。

(7 ; 9, 20) 昼休み、T1と向かい合い、T1のまねをして遊ぶ。そのうち、顔を近づけて遊んでいると、A、自分の顔を隠して、「バァー」といいながら手を観音開きにあげ、ニコツと笑う。こちらでも微笑み返すと、同じような活動をもう1回繰り返す。

(7 ; 9, 20) 体育の時間の活動

交代で打ったり投げたりして床野球の練習をする。最初にA打つが、まったく目が宙を追って、ほとんど動きがない。しかし、T2がさかんには

やしたてて雰囲気盛り上げると、体を上下に動かしたりして笑顔が見られ始める。そのうち、座位でバットを振ることがわかったらしく、T2の「カーン」というかけ声に伴うスイングのまねをしながらバットを振りだす。そして、顔をボールの方に向けてやると、ボールにバットがあたるようになってきた。これまでの関わりが少し過ぎたかもしれないと反省。

7歳10カ月

(7 ; 10, 11) 2時間目途中、抱いておしっこに連れていく。A、外を見るような形で抱かれて廊下を歩く。すると、「おっおっ、ブップ」と下に見える白い乗用車を指さしながら言う。ひさしぶりに叙述表現とびだす。

(7 ; 10, 23) スケッチ会で外へ出る。校庭から電車が通り過ぎるのを見た後、「描こうか」と言って鉛筆を渡すと、画用紙の左下の方に小さい丸を描いて、それをやや角ばったまるで幾重かに囲み、なにかもごもごいいながら指さし、描いたものを意味付けしているような行動を見せる。

7歳11カ月

(7 ; 11, 16) 最近、「コワイヨー、コワイヨー」と言いながら、暗がりに入りたがる。

(7 ; 11, 19) 寝不足のためか、朝から少し機嫌が悪い。個別指導の時間、T1とBが遅れて入ってくる。T2、私の顔を見るやいなや、「また洗濯物が増えました」という。窓の所を見ると、ズボンとパンツが干してあったので、「あっ、Aくんしっこしたの」と少し強い口調でAを見て言うと、A、ばつが悪そうに「バイバイ」と何回も言う。

8歳0カ月

(8 ; 0, 10) 夕方、NHKのみんなの歌で「せんせ」という歌があったら一緒に口づさむ。

(8 ; 0, 12) 音楽の時間、歌を歌う。「こいのぼり」の歌詞の中で、「おとうさん」というところを繰り返し歌う。

8歳1カ月

(8 ; 1, 3) 朝から顔色が悪い。ほとんど表情も変えず、じっとしている。朝の会が始まり、お名前呼びの歌が流れ始めると、パッと(少なくともT1にはそう感じられた)表情が明るくなり、両手の指をたてリズムに合わせて机を叩く。

(8 ; 1, 10) 朝の会の活動

今日は畳の部屋で座って行ったが、すこぶる機

嫌がよかった。お名前呼びや日付調べの時もT1の方を向いて、視線は違うところを泳いでいるがニコニコしていた。去年からそうだが日付調べや時間割調べなど、目の前にカードを提示すると、必ず手で触りたがり、触るとニコッとして引っ込める。今日もお天気カードを提示したとき、このような活動がみられた。また、時間割調べで「たいいく」とT1が念を押すようにいうと、すかさず「タイ、タイ、タイ」と大きな声で繰り返す。自分で「たいいく」といったつもりになっているのだろうと思う。

一通りの活動が終わり、音楽テープをかけるが、「お正月」や「やぎさんゆうびん」「ひなまつり」「一年生になったら」、どれもリズムに合わせて体を動かす。今日の体でのリズムのとり方は、体を背伸びするようにして上下に動かす。左右に揺らす、それに視線は宙を泳いでいるが、あぐらに座った足の裏を合わせ、それを開いたり閉じたりしてリズムをとる。の3通りであった。

#### (8; 1, 10) 体育の時間の活動

一昨日と同じ、風船バレーを行う。最初からT1が手を持って打たせると、やがてのけぞって嫌がるようだったので、一人にさせておくと、宙を浮かぶ風船をじっと見て自分の方へくると、さかんに手を動かし風船を追う。風船をつかむと保持して離さない。彼なりに主体的に参加しようという一端が見られる。

(8; 1, 14) 最近、場面に応じた表情が上手になってきたよう。本当によく人の話に耳を傾けている。

#### (8; 1, 15) 朝の会の活動

今日もすこぶる機嫌がよい。日付調べや時間割調べの時など、友だちやT1がいうことをすぐにまねしてニコニコする。また、いつもEやCに行わせている日付の数字をなぞることをやりたがり、T1がみんなにカードを提示し終わると、近づいていきカードに手をのばし、数字の上を少しなぞるようなそぶりをする。

#### (8; 1, 15) 国語の時間の活動

やはりAが行う動作をこちらが模倣するととても喜ぶが、T1が行う活動の模倣までは志向が高まらなかつた感じ。しかしその中で、T1が耳を引っ張ると、同じ動作はしなかったものの、耳の穴に手を入れて回しながらニコニコする。T1の動作を模倣しようとした志向の現れかとも思うが、

T1の耳を動かす動作から何か自分がする動作を思いついたのかも知れない。

(8; 1, 17) 家で大きなダンボールの中に入れてやると喜んでかくれんぼしたりして遊ぶ。

(8; 1, 19) 朝の会の時、「がっこ、がっこ」と大きな声で言う。

(8; 1, 25) ペグを抜き、それを空き缶に入れる活動を行う。前回、前前回とやっていたせいか、少しのらない様子ではあったが、それでも1個ずつ、時には2・3個まとめて取って入っていた。しかしこの活動も2・3回繰り返すと飽きた様子で机に寝そべってしまう。そこで、1個ペグを抜くごとに両手で脇の下を持ち、前後に揺らしてやると笑顔が見られ出し、活動自体への取り組みも志向が高まってきた感じだった。時間が終わってからも、一人で体を揺らし、ニコニコしていた。

#### 8歳2カ月

(8; 2, 0) 算数の時間、ペグ抜きをする。抜いたペグを持って「メンメ」というので、T1が自分の目を持っていっておどけると、とっても喜ぶ。

#### (8; 2, 4) 国語の時間の活動

最初、水平棒に刺した玉を抜く活動を行うが、3セッションくらいで寝転がろうとする。近くにいたBも少し機嫌が悪かったため、そちらの方も見て、すこし活動自体が中断する。その後、まねっこ遊びを行う。ほとんどがAがイニシアティブをとるやりとりであったが、3回だけこちらがイニシアティブをとったまねっこ遊びが成立した。

(8; 2, 6) 昼休み、奉仕館へ少し早めに行く。暖房をつけている間、車椅子に座らせておいたが、右手にある3段の戸棚の真ん中の開き戸を見つけ、手を伸ばして開く。開きながらギギッと音がしたためか、「こわいよ、こわいよ」と声を潜めたようにいう。

(8; 2, 6) 4時間目、うんこがしたい様子だったので、おまるに座らせていると、しばらくしてどこからかサイレンが鳴ってきた。A、鳴り終わった後で「ウーウー」といって模倣する。続いて「ごはん、ごはん」といって天井を指さす。最初何のことか分からなかったが、「あー、ごはんの時、ウーウー鳴るもんね（このあたりでは、お昼や夕暮れには時計替わりにサイレンがなる）」と言うと、うんうんとうなづく。

(8 ; 2, 13) 音楽の時間、歌詞の中に「カラス……」が出てくる歌を歌うと「カー、カー」と大きな声でいいながらニコニコする。

(8 ; 2, 28) 昼休み、T1の所に来ると、必ずBと一緒に写っている写真を手にとって見つめながら、「あらら……」などたくさんおしゃべりする。

8歳3カ月

(8 ; 3, 6) 学校でバルーンや毛布を使って揺らし遊びをする。家に返って母親が、「学校でブランコ、ブランコした？」という歌いながら体を動かす。

8歳4カ月

(8 ; 4, 11) 最初に「こぐまちゃんおはよう」を読み聞かせした。最初の方は横向いていたが、しばらくすると、絵本をちらっと見ては手を伸ばして絵本に触れることが見られ出した。

(8 ; 4, 14) Aの動きをまねる同型的活動のやりとり(まねっこ遊び)を行う。特に手を握り合ってかわりばんこに引っ張り合う活動を喜んだ。少しのってきたところでベグを取り出し、T1の目に押しつけながらAに近づいていくと笑顔が見られる。すぐベグを渡して交替交替にやろうと試みるがベグを受け取ってもじっと持ち上げたまま落としたりしてやりとりが続かない。また、おもちゃのミニチュアを出して、最初T1がAにつぐと飲むまねをしたので、すぐに道具を入れ換えて「今度は先生にちょうだい」というとつぐまねをする。

(8 ; 4, 18) 絵本を2冊読んだ(「3匹のこぶた」、「あそびましょ」)。「3匹のこぶた」の方は機嫌も悪く、ほとんど見なかったが「あそびましょ」の方は、「ちょちょちょ」などの手遊びはT1のしぐさを見てまねしていた。

8歳5カ月

(8 ; 5, 6) 積み木を使って遊んだ。その前に絵本「こぶたは……」を読む。牛の寝ている絵が出てくると、相変わずじっと注視する。少し調子にのってくると、絵を手で軽く叩いた後、ブラインディングをしながら微笑んだりしていた。

続いて7cm角の積み木を交互に積む活動に入った。少し難しいかなと思われたが、T1→A→T1……と7個くらいまで積む活動が2回くらい繰り返して活動できた。3回目になると、積み上げていくことよりも「オロロロロ……」とい

いながら、2、3個積んで倒すことへ関心に移り、そればかりやろうとしていた。

(8 ; 5, 19) 「あいうえおの本」を読む。この本はいろんなふりや発声が出てきて、本人も大変関心が高そう。

続いてままごとをした。今日はT1がついだのを飲むばかりで、T1が「ついで」といってもしなかった。

8歳6カ月

(8 ; 6, 17) まねっこ遊びを行う。いつもに比べると、少しのりかたが今一つといった感じだったが、みけんにしわを寄せたり、目を指して「ベーツ」といって目尻を下げたりといった活動を模倣しあった。その後、おしっこに行った後、部屋を移して向かい合わせで、今度はT1の方から模倣によるやりとりを始める。今日は顔の部分を中心に、まず両掌で頬を軽く叩いてみせると、A児はげんこつの状態で頬を軽く叩いた。その後行った順番ははっきりしないが、頭を掌で軽く叩くと、同じく頭を掌で軽く叩く。目は両手で同時に指さすと、同じように指すことができた。鼻は手でつまむと指すような感じで鼻に触る。耳はつまんで横に広げると、手でちよつとつまんで上へ上げるような活動が見られた。また以上の活動はポンポンボンとリズムカルに連鎖した。

#### IV. 考 察

7歳4カ月

この時期で注目されるものの一つは、(7 ; 4, 21)のエピソードである。ここでは自分の口にごっこ遊びの中でスプーンを自分の口に持っていき、その後T1の指示でT1の口へスプーンを入れる行為が見られている。これは、麻生(1991<sup>2)</sup>)の事例で報告されている、「“食べさせる”というコミュニケーション行為」の発達第1期に見られる、「誘導された“食べさせる”行為」にあたると思われる。

次に目につくのは、(7 ; 4, 11)、(7 ; 4, 12)、(7 ; 4, 13)などのエピソードに見られる、他者の問いかけに対する応答としてのうなづきと、(7 ; 4, 4)、(7 ; 4, 18)など伝達的身振りとして用いられるうなづきという、2種類のうなづきが見られていることである。この違いは、麻生(1992<sup>3)</sup>)が言うように、前者はそのルーツとして“行為の共同化”が想定できるのに対し、

後者は乳幼児が手の届かない対象に対して“欲望”を抱くプロセスと重なっていることをそのルーツとして考えうると思われる。特に後者は、“「トライ」に乗せてもらう”という活動を予期した“準備的身構え反応”(麻生、1992<sup>3)</sup>)に近いものと考えられる。

(7 ; 4, 13)、(7 ; 4, 14)は同じクラスのBとの関わりについてのエピソードである。このうち前者は、自発的な giving である。このようないわゆる“手渡し”は岩佐・森島・湧井(1986<sup>5)</sup>)が言うように“見せる”と異なり対象物が相手に渡りきり、物によるやりとりが成立することから、物の“意味”が Werner&Kaplan (1963<sup>16)</sup>)のいう社会化過程や内化過程により、物の“意図”に変化したものと考えられ、三項関係の成立と考えられる。

#### 7歳5カ月

ここで注目されるのは(7 ; 5, 1)のエピソードである。前回の報告に引き続きイナイ・イナイ・バーを楽しむ様子が観察されている。前報告では、T1が積み上げたソフト積み木の陰から顔を出すのを見て喜ぶという、どちらかと言えば遊びに対して受け身的な参加の仕方だったのが、このエピソードでは、完全に定型化された遊びの中で「イナイ・イナイ………」という他者のことばに、次の「バー」と言って相手が顔を出してくる場面を見通しながら口をすぼめ、一緒になって「バー」と言いながら微笑んでいる。

つまり、イナイ・イナイ・バー遊びという一つの行為文脈がA児の中に内化され、T1との関わりの中で一つのフォーマットを形成していると言える。またイナイ・イナイ・バー遊びが持つ楽しさの中心である、「イナイ・イナイ………」と言う「ま」に抱く期待感と「バー」といったときの笑顔の交流・共感(Parrot, 1985<sup>13)</sup>; 伊藤、1989<sup>4)</sup>)、といった点からも、A児はその楽しさを十分に味わっている感じである。

さらに(7 ; 5, 5)ではA児はこの遊びを一人で行って楽しむことが見られている。これは先に述べたイナイ・イナイ・バーという一つの行為文脈がA児の中に内化されたことを裏付けるものであると同時に、見えない他者を自分の前に想定して遊んでいるようなエピソードである。すなわち、Wallon (1956<sup>15)</sup>)の言う「内なる他者」の芽生えとも解釈されよう。

#### 7歳6カ月

この時期ではまず、(7 ; 6, 5)、(7 ; 6, 19)など、言語模倣がよりはっきりしたものになっているのが注目される。秦野(1983a<sup>6)</sup>)によれば、このような言語模倣は他者のことばをまねることでそのことばを自己に取り入れ内化していく過程であり、言い替えれば、子どもは他者の言語模倣をすることでことばの反復練習をしているとも考えられるという。そして通常この時期に子どもの語彙獲得は急増し、新しい語の獲得がそれ以前よりスムーズに行われるとしている。A児の場合、同時期に急激な語彙獲得は見られなかったが、(7 ; 6, 6)に見られるように、大人の発語に対する応答が明確になってくるといった現象が見られた。これは、この時期のA児の言語模倣が秦野(1983a<sup>6)</sup>)のいうような「模倣による学習」(麻生、1988a<sup>1)</sup>)といったものでなく、「コミュニケーションとしての模倣」(麻生、1988a<sup>1)</sup>)として作用し、その結果としてA児—大人間のコミュニケーションにおける相互の意図の了解性が高まり、それがA児の大人の発話に対する応答が明確になってくるといった現象として現れてきたと解釈される。

また(7 ; 6, 21)ではT1とAが「デインチ」といいながら同じ対象を指さしている。これは麻生(1992<sup>3)</sup>)に見られる「原言語的発話と結び付いた指さし」と見られる。またこの後T1が「デインチ」と同じところを指したのに対しAが微笑んでいるのは、まさしくエレベータの照明がAとT1との間で「共同化された対象」(麻生、1992<sup>3)</sup>)となっていることを示すものであろう。

#### 7歳8カ月～7歳11カ月

ここでまず注目されるのは、(7 ; 6, 13)のエピソードである。積み木で複数の見立てに使用している。これらは Nicolich (1977<sup>11)</sup>)では、レベル2の自動シンボル操作、あるいはレベル3の単一動作象徴遊びに相当する。

(7 ; 10, 11)では指さしが見られている。これは、秦野(1983b)の分類における「叙述の指さし」の下位項目である「命令的な指さし行動」の色合いが強い。

また(7 ; 10, 23)では、自分の描画に意味づけを行うような行為が見られてきている。A児はこれ以前に(7 ; 4, 16)のエピソードに見られるように、おふろの絵本を見せながらお風呂ごっ

こをすると、お風呂の絵を見ながらすぐに服を脱ぎたがる行動が見られていた。これは山形(1988<sup>17)</sup>)がいうように、絵に対象の特徴をとらえ、命名する(ここでは「動作による命名」(岡本、1982<sup>12)</sup>)という対象認知の成立と考えられる。そしてここでの発話は、筆者の観察の中では、対象認知成立以後、描画後に絵を指さしながら初めて見られた発話であり、描画に対する命名の一種と解釈できると思われる。

#### 8歳0カ月～8歳1カ月

ここで注目されるのは(8; 1, 15)のエピソードである。このエピソードの最初では、T1がA児の仕草を模倣するという活動、麻生(1992<sup>3)</sup>)のことばをかりれば、A児の行動をT1の活動によって“コード化”する活動をおこなっている。そして先の報告(熊川・栗山・松尾・山下、1992<sup>9)</sup>)でも述べたようにA児はそれを見て大変喜んでいて。ということはA児はすでに、自分の行動に対しT1が随伴的に応答することをかなり理解してたと思われる。そしてエピソードの後半では、T1が両耳を手で両側に引っ張ったのを見て両耳に指を突っ込んでいる。この時点でA児は、「他者の姿勢・態度をまねられる“身体”」(麻生1992<sup>3)</sup>)を獲得しつつあるように思われる。

#### 8歳2カ月～8歳4カ月

ここでは(8; 2, 4)に見られるように、(8; 1, 15)に見られたT1の仕草を模倣することがさらに多く見られるようになってきている。これはさきに述べた「他者の姿勢・態度をまねられる“身体”」(麻生、1992<sup>3)</sup>)の活動がますます活発化してきていることを表すエピソードと考えられる。

(8; 2, 6)では、再び指さしが見られている。この指さしも(7; 10, 11)の指さしと同じく、「命令的な指さし行動」(秦野、1983 b<sup>7)</sup>)と考えられる。

(8; 2, 28)では同じクラスのBと一緒に写っている写真を見ながらたくさんの発話が見られている。この解釈については、Lewis&Brooks-Gunn (1979<sup>10)</sup>)の見解が参考になると思われる。彼らは、10～12カ月児と16～18カ月児53名を対象として命名・指さし以外の反応(視覚的 fixation、ポジティブな感情(顔表情・発声・運動)、言語ラベル以外の自発的発声)を測度とした写真像認知実験を行い、ポジティブな感情は、自分の写真

と同輩の写真に対する方が、大人と子ども(5歳と10歳)の写真に対するよりも有意に多かったとしている。このことから考えるとA児は写真のB児に関して何らかのポジティブな感情を抱えていることが推測される。しかし、A児が写真のB児をどの程度自己から相対化した他者として理解しているかについては判断が付きにくい。

(8; 4, 14)では、T1と交互に引く一引かれるの遊びを活動を楽しむことが見られている。このような“引く一引かれる”といった活動は、“能動一受動”のやりとり、即ち相補性(〈子どもの生活世界〉研究会、1986<sup>8)</sup>)の要素を含む遊びである。ここで、前述したように、A児は(8; 1, 15)、(8; 2, 4)など、時期を近くして「他者の姿勢・態度をまねられる“身体”」(麻生1992<sup>3)</sup>)も形成されてきていた。これは人間の身体的存在の中の2対の概念、個別性と共同性の内、共同性の中で相補性とともに対をなす同型性(〈子どもの生活世界〉研究会、1986<sup>8)</sup>)に属するものである。そしてこのように、2対の概念が時期を近くして形成されている様は、〈子供の生活世界研究会〉(1986<sup>8)</sup>)が「……また同型性一相補性にしても、それぞれを純粹に示す現象を取り出すことは不可能です。具体的な現象にはいつも両側面が微妙に絡み合っているのです。」と述べているように、2対の概念が同時に形成される、換言すれば表裏一体で形成されていくことを示していると思われる。

#### 8歳5カ月～8歳6カ月

まず(8; 5, 6)では積み木を交互に積む活動が7個くらいまで続くようになってきた。これも(8; 4, 14)と同じように、同型性、相補性の共時的な形成関係を示すエピソードの一つと考えられるが、交替遊びという活動自体に着目すると、谷村(1989<sup>14)</sup>)がワロンの理論について解説する中でまとめている交替遊びの2つの側面、すなわち交替遊びの同化的側面と異化的側面の内、どちらかと言えば同化的側面が前面に出た交替遊びといえよう。ちなみに(7; 5, 1)のイナイ・イナイ・バー遊びのエピソードなどは、前述の異化的側面が前面に出た交替遊びといえるだろう。

(8; 6, 17)では、Tのモデルを示した後、身体部位の模倣がかなり正確に連続してできるようになってきている。このエピソードから見ると、A児は「他者と基本的に同型な“身体”」(麻生、



1992<sup>3)</sup>) をこの時点で獲得しているように思われる。

# 謝 辞

本報告をまとめるにあたり、前報告同様、資料使用をこころよく許可していただいたAくんのご家族に深謝いたします。

# 文 献

- 1) 麻生 武(1988a): 模倣と自己と他者の身体. 岡本夏木編著 認識とことばの発達心理学. ミネルヴァ書房, 37-60
- 2) 麻生 武(1991): “口” 概念の獲得過程—乳児の食べさせる行動の研究—. 発達心理学研究, 1(1), 20-29.
- 3) 麻生 武(1992): 身ぶりからことばへ 赤ちゃんにみる私たちの起源. 新曜社.
- 4) 伊藤良子(1989): 乳児はイナイ・イナイ・バー遊びをなぜ喜ぶのか. 東京学芸大学特殊教育研究施設報告, 38, 99-103.
- 5) 岩佐昌英・森島・慧・湧井 豊(1986): 三項関係の成立と指示・提示行動の発達の研究—対物操作の発達と提示行動出現の発達の意味について—. 日本教育心理学会第23回総会発表論文集, 212-213.
- 6) 秦野悦子(1983a): 発表初期のことばのおくれ—言語獲得と象徴的活動の関連—. 財団法人小平記念会 家庭教育研究所紀要, 4, 86-94.
- 7) 秦野悦子(1983b): 指さし行動の発達の意義. 教育心理学研究, 31(3), 70-79.
- 8) 〈子どもの生活世界〉研究会(1986): 自己形成論⑦. 発達, 25, ミネルヴァ書房, 102-113.
- 9) 熊川宏昭・栗山豊明・松尾逸央・山下 勲(1992): 福山型筋ジストロフィー症児の発達に関する事例研究. 福岡教育大学障害児治療教育センター年報, 5, 29-33.
- 10) Lewis, M. & Brooks-Gunn, J. (1979): Social cognition and the acquisition of self. Plenum Press. New York.
- 11) Nicolich, L. (1977): Beyond sensorimotor intelligence: Assessment of symbolic maturity through analysis of pretend play. Merrill-Palmer Quarterly, 23, 89-99.
- 12) 岡本夏木(1982): 子どもとことば. 岩波新書.
- 13) Parrot, W. G. (1985): Cognitive and social factors underlying infant's smiling and laughter during the peek-a-boo game. A doctoral dissertation. Unpublished.
- 14) 谷村 覚(1989): 自己と他者の発生 ワロンからなにを学ぶか. 梶田穀一編著 自己意識の発達心理学. 金子書房, 127-178.
- 15) Wallon, H. (1956): Niveaux et fluctuations du moi. L'Evolution psychiatrique. I. (浜田寿美男訳編(1983): ワロン/身体・自我・社会. ミネルヴァ書房, 23-51.)
- 16) Werner, H. & Kaplan, B. (1963): Symbol formation: An organismic-developmental approach to language and the expression of thought. Wiley. (鯨岡 峻・浜田寿美男訳・柿崎祐一監訳(1974): シンボルの形成—言葉と表現への有機発達論的アプローチ. ミネルヴァ書房.)
- 17) 山形恭子(1988): 0～3歳の描画における表象活動の分析. 教育心理学研究, 36(3), 10-18.